

## 第4章 協働プロジェクト

環境問題に取り組むためには、環境保全活動への関心や参加意欲の向上、環境保全活動を担う人材や組織の発掘・育成などが求められます。こうしたことから、第2次環境基本計画の中で市民・事業者と市が協働して取り組む「協働プロジェクト」を位置づけています。

「望ましい環境像」の実現に向けて協働プロジェクトを推進することにより、環境問題への関心の拡大、環境活動への参加拡大、地域コミュニティの活性化、町会・自治会と環境保全活動団体の連携拡大を図ります。

協働プロジェクトの評価は、市で把握できる市民・事業者との協働による活動実績（評価指標として参加者数、活動箇所数や参加世帯数など）及び活動状況などについて把握し、5つのプロジェクトごとに結果をとりまとめ評価します。

### 第1節 里山復活プロジェクト

私たちの生活の身近な場所にある里山・谷戸や斜面緑地など、貴重なみどりの機能を回復することが重要です。地下水かん養や生物多様性の保全など、みどりや水辺の持つ多面的機能の回復をめざします。

	令和3年度実績
評価指標	里山保全の担い手育成（受講者15人 前年比5人減）
	「上川の里」特別緑地保全地区整備（活動箇所1、参加者延べ680人 前年比225人増）
	斜面緑地保全区域維持管理ボランティア（活動箇所1、参加者延べ11人 前年比2人減）
	公園アドプト制度（活動箇所20、登録者1,274人 前年比1人増）

#### <庁内環境調整委員会での総括評価>

各事業とも緑地や公園など地域の自然環境を活かした環境教育・環境学習の場として活用している。新型コロナウイルス感染症対策を行ったうえで活動再開をすることができた。

#### <今後の展開>

市民・事業者・市が協働し、環境教育・環境学習の場として活用していくとともに里山等の保全について啓発を行う。また、アドプト制度については市民だけでなく、企業にも向けて推進する。

#### <環境推進会議の意見>

多くの里山で活動が行われており、環境学習の場所としても活用している。里山風景を保存している公園等については特に、里山生態系が悪化することのないよう、専門家の意見を求めながら継続的に指導する体制をお願いしたい。また、計画的な保全活動が行えるように専門家の助言や指導が受けられるような仕組みも構築してほしい。保全活動の担い手である市民団体への支援も拡大してほしい。



## 第2節 生ごみ資源化促進プロジェクト

「循環型都市八王子」の実現には、一層のごみの減量・資源化が重要です。生ごみの減量・資源化のため、地域の特性に応じた生ごみの地域循環を促進します。

令和3年度実績	
評価指標	ダンボールコンポスト講習会（参加者367人 前年に同じ） コンポスター、密閉式容器による生ごみ資源化講習会（参加者13人 前年比3人増） 生ごみ減量化処理機器等の購入費補助個数（863個 前年比72個減）

### <庁内環境調整委員会での総括評価>

各家庭へ生ごみの資源化を普及するため、ダンボールコンポストをはじめとする生ごみの資源化手法を、八王子市生ごみリサイクルリーダーが講師となって、講習会を実施している。新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、講習会を実施できない期間もあったが、受講者数を制限して講習会を実施し前年同様に開催できた。

### <今後の展開>

新型コロナウイルス感染症感染防止対策を徹底して講習会を実施するとともに、地域特性に応じた取組を進めるため、各地区に生ごみリサイクルリーダーが配置できるように生ごみリサイクルリーダーを養成していく。

### <環境推進会議の意見>

地域で簡単に取り組めるダンボールコンポストは、生ごみを資源化する大事なツールのひとつである。今後、当初の目標に対して現状がどのように進行しているのかを把握し、見直し等を含め取り組むとよい。



### 第3節 省エネ応援プロジェクト

地球温暖化を防止するためには、一人ひとりがCO<sub>2</sub>排出量の削減に取り組んでいくことが重要です。家庭や職場、地域などで省エネ知識を高め、簡単で継続的に取り組める省エネ行動を応援します。

	令和3年度実績
評価指標	家庭における省エネ行動の推進（はちおうじエコアクションポイント会員[4, 894世帯]前年比72世帯増）

#### <庁内環境調整委員会での総括評価>

地球温暖化防止活動推進員が講師を務める講座やイベントを通じて省エネに関する知識の普及啓発を図った。

#### <今後の展開>

はちエコポイント会員のなかで、省エネ行動等に取り組む会員（ポイントによる商品交換者）は、約5,000世帯のうち、約400世帯となっている。そのため、はちエコポイント会員が参加したくなるような事業（見える化に加え、ナッジの活用など）への見直しが必要である。また、Web等のデジタルを活かすことで、既存のほか、新規会員における事業への参加を促進する。

#### <環境推進会議の意見>

省エネ行動を推進するには、市民が取り組みやすい、取り組みしたくなるような工夫が必要である。デジタルを活用するなどして、全市に広がるような取組となるよう努めてほしい。温暖化防止のためのCO<sub>2</sub>削減には、市民の行動変容を促すために、エネルギーの見える化は絶対必要である。また、事業者への啓発にも取り組んでほしい。



#### 第4節 環境教育サポートプロジェクト

環境問題を解決していくためには、一人ひとりが問題を認識・理解し、行動することが重要です。小・中学校における総合的な学習の時間などを活用し、学校での環境教育を支援します。

令和3年度実績	
評価指標	環境教育支援事業（実施20校 授業を受けた児童・生徒延べ2,163人 前年比928人増）
	八王子浅川水辺の楽校事業（授業を受けた児童・生徒252人 前年度中止）
	八王子市小学校科学教育センター事業（センター生に登録した児童80人 前年比35人増）
	自然観察会（参加した児童・生徒24人 前年比9人増）
	北野環境教育・学習拠点づくり（環境施設の社会科見学で受け入れた児童・生徒880人 前年度中止）

##### < 市内環境調整委員会での総括評価 >

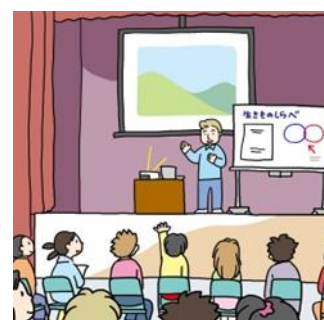
新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策を考慮した上で実施することができた。科学教育センター事業では、オンライン講座も実施できた。

##### < 今後の展開 >

新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底して実施するとともに、内容の充実や参加者の増加を図る。

##### < 環境推進会議の意見 >

小・中学生への環境教育は非常に重要な取組であるため、引き続き各所管が連携を図り、市民・事業者・市の協働により環境教育を進めてほしい。



## 第5節 地域の環境美化プロジェクト

まちの美化を進めるためには、モラルやマナーを守り、都市の美観を保持することが重要です。市民・事業者が、清潔で美しい地域の環境づくりに取り組めるよう支援します。

令和3年度実績	
評価指標	道路アドプト制度（活動団体数68 前年比4団体増）
	公園アドプト制度（登録者18,579人 前年比415人減）
	水辺の水護り制度（登録者466人 前年比2人増）
	落書き消去活動（参加者延べ15人 前年比4人増）
	生活安全パトロール（参加者延べ約120人 前年比130人減）
	違反屋外広告物除去活動（参加者延べ204人 前年比15人減）
	地域モデル花壇支援事業（支援団体数5団体 前年に同じ）
	花づくり事業（会員53人 前年比7人減）
	戸吹清掃美化委員会（参加者延べ192人 前年比64人増）
	慰霊塔清掃（参加者延べ158人 前年比6人増）
	老人ホーム跡地美化（参加者延べ374人 前年比10人減）
	みんなの町・川の清掃デー（中止）
生涯学習センター植栽ボランティア（参加者123人 前年比81人減）	

### <市内環境調整委員会での総括評価>

新型コロナウイルス感染症の影響により活動団体の縮小なども見られ参加人数が減少している事業もあるものの、多くの事業を実施することができた。新たに地域モデル花壇支援事業が開始できた。

### <今後の展開>

アドプト制度などの周知を行い、参加者の増加を図り地域の環境美化に努める。

### <環境推進会議の意見>

市民ボランティアが継続して美化活動に努めている。市は、今後も地域の環境づくりに取り組めるよう支援し、さらに多くの市民が参加できるよう務めてほしい。また、アドプト制度などもっと簡単に利用できるようPRに努めてほしい。また、企業の参加も推進してほしい。

